

## 令和2年度第2回やまがた6次産業推進会議の開催結果について

■ 日 時 令和3年1月20日（水） 14:00～15:30

■ 出席者 別添出席者名簿のとおり

■ 会議の概要

「第3次やまがた6次産業化戦略推進ビジョン（素案）」について、意見交換を行った。

<主な意見>

○ 全体

- ・ 今後、重要となるのは柱内の施策をどのように実施していくか。施策の具体化に力を入れて欲しい。
- ・ 柱間の連携が重要。事業実施の上で考えていって欲しい。

○ 販売チャネルの多角化による需要開拓・販路拡大について

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響下では、「販売チャネルの多角化」は非常に重要な施策。
- ・ ネット販売促進のためには、ECサイトの構築支援と併せてECサイトの活用を働きかける情報発信が重要。
- ・ 実需者ニーズの把握、販売の出口対策が一番の課題。最も期待するのは、販路拡大に向けた情報提供と情報共有。
- ・ 売れる商品を作るためには、マーケットが何を求めているのか、どのマーケットに何を売るのかといったマーケットインの視点を持つことが重要。

○ 他分野・他産業との連携の拡大について

- ・ 農泊推進地域というのは、宿泊、食事、体験の3分野を地域として備えていくことが必要と考える。地域内で役割分担をしながら、3分野を取り込んでいくことが重要。
- ・ 今まで農泊等に取り組んできた地域のフォローを含め、地域ぐるみで農泊に取り組む地域の増加に取り組んで欲しい。
- ・ 「他分野・他産業からの参入」について。資本の大きい企業の参入が続いた場合、中小の農業者、生産者が自ら立ち上がろうとする意欲がそがれる危険性を憂慮。相成り立つ関係性が必要。

○ 県産農林水産物を起点とした食産業の振興について

- ・ 食産業者が商品を作るにあたって、「産地背景」というイメージが強くないと、商品力も強くない。意識の醸成が必要。
- ・ 山形県の強みを活かし、さらに付加価値を高めるよう、戦略的に農業と食品産業をつなげるマッチングが必要。

○ 6次産業化による多彩なアグリビジネスの振興について

- ・ 6次産業化は地域ぐるみでやっていくことが最も重要。その際に、自ら立ち上がろうとする機運づくりの強化が大切。
- ・ 共同利用加工所の運営においては、長期的に運営できる人材を育成することが必要。

○ 6次産業化の推進基盤の強化について

- ・ デジタル化やIT化、デジタルトランスフォーメーションに対応していく施策展開を期待。
- ・ 6次産業化支援機関によるサポートの継続が必要。